



ダイヤランド区民の会

会報2021年9月1日号

幹事会を開催



今後は、隔月で開催

2021年6月26日、ダイヤランドホールにて幹事会が開催されました。

議長は2地区の幹事の下郷さんが務めました。

敬老会の実施の有無や防災に関する議題を話し合いました。

また、幹事会は今期から防災部会を兼ねることになったことから、その重要性を考慮し今後は隔月で開催することとなりました。

今後の日程

幹事会 8月21日、10月16日、12月18日、2022年2月19日

役員会議 9月18日、11月20日、2022年1月15日

特別委員会 9月11日、11月13日、2022年1月8日

全ての会議の時間は10:00～12:00、場所はダイヤランドホールです。

区民の会の会員であればどなたでも全ての会議が傍聴できます。

令和3年度、敬老会

中止 のお知らせ

9月の開催を予定していました敬老会について検討を重ねた結果、現在の状況で一堂に会する食事会などの開催は新型コロナウイルス感染症の感染リスク及び重症化するリスクが大きいと判断し、感染拡大防止の観点から健康安全面を第一に考え中止いたします。なお、これに代わる記念品などを検討中ですがまだ決定には至っていません。

函南町軽井沢メガソーラー建設阻止に向けた活動状況



川勝知事との面会が実現



▲ 2021.6.30 川勝知事との面会が実現

■川勝知事に、大規模に森林を伐採・造成するメガソーラー建設が行われれば甚大な災害が発生する可能性が高いことを示す資料をもとに説明しました。

■昨年11月18日、知事は私達の活動を支持する旨の約束をして頂きましたが、この度、住民の命や暮らしを守ることが私の役目「皆様方の力を貸してほしい。」「一緒に問題解決に取り組みましょう。」との力強いお言葉を頂きました。

本年7月3日、私達が予てから危惧していた最悪の事態が熱海市伊豆山で発生。



▲ 2021.7.3 AM10:30伊豆山で土石流発生

■丁度、その頃、私達は「丹那小学校の裏山」に建設が予定されているメガソーラーの現場の状況を把握するため丹那沢の入口付近にいましたが、道路はご覧のとおり、上流部から激しい濁流により行く手を阻まれました。メガソーラーが建設されれば、極めて危険な状態となります。



同時刻：丹那沢入口の状況「道路に濁流」▶

全国再エネ問題連絡会が発足



- 発足時、北海道から九州まで26府県約30団体約2万8千人により発足しました。
今後は、全国の方々と力を合わせ問題解決に取り組んでまいります。

公式ホームページ

<https://saiene-news.com>

令和3年(2021年)7月17日(土曜日)

ソーラーを考える会
——山南町井門沢メガソーラーをめぐる
が、全国の太陽光発電事業なども、
光電所（スカラーラー）や大規模風力発電所（スカルギー）問題を
取り組む団体に呼び掛け、「全国再生エネルギー連絡会」を立ち上げた
森林の環境保全などをめぐる。再生可能エネルギーとの
調和を図るのが狙いで、18日に初のオンライン会議を開く。

「再工ネ問題」を共有

「全国連絡会」発足へ

活動内容は、**国議**良鳴、「太白ガント」山口代表は現在、**方**地の政策をアピール。リーグ、メガソーワーク等から長崎県に反対する建設に反対する会議も開かれた。全国17県、20都を越える各地の活動の情報交換会、「宮城県」、「宇都宮市」等で開催された。この他の目的を達成、久島の生活を守る会一定。全国のさかみやま会、長崎県、「一般財團法人日本熊森協会」、(兵庫県)の5団体。一部の法令改正を主張する会議も開かれた。本部は同協会が務め、ラーニングセンターを考へる会など、たと」と話している。

▲ 伊豆日日新聞(2021年7月17日版)

各地区に於ける防災訓練について

防災部

防災部 坂本健

■現在全国各地にて「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」等外出自粛等が要請されております。また首都圏に隣接する東部地域を中心に新規感染者が増加しております。

■7月28日時点では町内58例目、東京では3800人以上の感染となっております。各地区に於ける防災訓練等は、極力最小限にてお願い致します。尚、猛暑が続いておりますので、熱中症対策もお忘れなく宜しくお願い致します。



デジタル無線機にかわります

■これまでダイヤランドでは繋がりにくかったアナログ無線機に代わり、デジタル無線機が配備されます。

■無線機に詳しい坂本さんのアイデアにより、追加の長いアンテナや本体から離して使えるマイクなどの採用によりこれまでのものより格段に実用的になりました。防災部を兼ねる幹事会を中心に無線機の訓練を行っていきます。

募金活動「居心地の良い地域にするために」

これは、1地区にお住まいの小島さんからの投稿記事です。

私は60歳の時、この地ダイヤランドに移住してきました、76歳の者です。
函南町市街地に住む友人に、芳しくない噂を聞き、おそらく過去に世間に疎いひと握りの人の言動が不評をかい、悪いことのみ誇張され風評が広がったと思われます。

1.“地元に寄り添おうとしない”という言葉に関しては否定できません。

地理的に街から外れ、コミュニケーションもままならず、別荘地特有の管理費による町内会費集めという接点が途切れ、これが募金活動の障壁になったと思います。

募金活動が極めて少ない=無関心=利己的=寄り添っていないという構図か?

また金持ちと言う言葉を耳にしますが、平均的な年金で生活している者にとりましては違和感を覚えます。

“金持ち”的言葉の裏には「もっと募金をしてよ」と言っているように感じます。

募金活動をもっと強力に進めようとした幹事の方がいらっしゃいました。その方は3地区の砂村さんでした。私と違い頭の切れる紳士でした。

直接函南町役場の福祉課に、町内36区全世帯数と募金額、募金率を調べあげました。(平成25年7月付)の“ダイヤランド区民の会の皆様へ日赤社員と社協会員についてのお願い”的A3版紙に書いてあります。

町内募金率(加入率)は日赤80~100%が32地区、10~67%が4地区。社協は経金率80%が32地区、10~20%が4地区と同じ傾向でした。

ダイヤランドの日赤の募金率は6.8%、社協は9.3%と比較にもならない最下位でした。

是非、今回の経金活動を定着させて頂きたいです。

2. 令和3年度募金状況を改善し水道料金の是正につなげよう、

昨年暮れの募金状況は区民の会750世帯に対して募金は僅か81世帯でした。

116,000円で58,000円ずつ2分割して赤い羽根共同募金会と社会福祉協議会に渡したとのことです。500円~2,000円持ってきた人もいたが記帳しない方もおり、正確な人数は不明のことでした。

3. 募金を管理費に組み入れて750世帯全部がに加できるようにしたらどうでしょうか?

10年前、総会時私が募金活動の活性化を訴え終わった時、初代区長の西村明男さんが私に近寄りポソリと「管理費に組み入れたら良かったな~」と一言おっしゃったのを今思い出しました。

“まさに名案です”是非総会、役員会で発議してください。

募金活動は年2回有ります。夏に500円、暮れに1,000円の徴収はどうでしょうか?

年度末に1,500円管理費支払い時に納入すればよいです。函南町役場の町長も当時の森町長から仁科氏に代わられたので、募金を1年半程地道に積み重ね2年目に水道料金の是正を訴えれば対話の土俵に乗れるのではないかと思います。

ちなみに、我が家(2人暮らし、週に5回入浴)の水道料金は、平均しますと年間43,000円でした。

ダイヤランド区の平均世帯だと思います。

この水道料金の1割または2割の是正ができるれば、区民の会の住民も充分メリットがあると思います。

4. 経済的にも身体的にも恵まれない人に温もりのある手を差し伸べましょう

募金は巡り巡って自分に幸せをもたらすという仏教の教えをタイ国民は大切にしていることを知りました。

1976年私が45歳の時、タイの首都バンコクから北へ100kmの所にあるアユタヤ工業団地で化学繊維工場の建設が託されました。着任した時は100人程の作業員が基礎用の掘削工事を行っていたが日ごとに人数が増えそれに伴って粗末なパラック小屋の魚屋、肉屋、雑貨屋、パナナや野菜売りのおばさん達も本格的な商売を始めたまち200戸ほどの小屋が立ち並び“部落”が出来あがった。工事車両も増え危険な為、高さ2mの建設ゾーンと住居ゾーンをわける隔壁を設けた。住居ゾーンの出入口に6畳ほどの小屋が建ち小屋の扉に20cm角の空き缶が掛けたり、タイ語で「募金をして下さい。神仏より皆様にご利益が受けられますように」と書いてあると現場事務所の女性事務員が教えてくれました。この小屋は日本の昔にあった寺子屋のようでした。午前8時前に朝食が終わると若い夫婦は4歳から8歳ぐらいの子供をこの寺子屋に預け作業現場に行く。老人達は家族みんなの炊事洗濯をし、乳幼児の面倒を見てしつかり家計を支えている。寺子屋の先生役は大学生でアルバイトと授業の実習を兼ねているとのことでした。夕方になると若夫婦は家に帰りながら寺子屋の募金箱に小銭を入れて子供たちを引き取ります。この小銭のチャリンという音が消えると作業員全員が帰ったことがわかる。のどかな静寂が広がり1日が終わる。少ない賃金だが必死に働き生きている。この姿を見て私も通算2年間の激務を完遂できたと思っている。

懐かしい話:タイに赴任して現地に入った時、少し日本語のわかるタイ人の総監督が私の所にきて最初に話したのが作家、橋田壽賀子の大河ドラマ“おしん”的話だった。幼児の“おしん”が米俵1俵と引き替えに小舟に乗って故郷を離れるとき“あちゃん、あちゃん”と呼びながら遠ざかっていく場面に多くのタイ国民が泣いたと話してくれました。(最高視聴率が日本51%に対してタイは65%と圧倒していた。)

お読みくださってありがとうございました。ページ、文字数に制約がある為、ご容赦下さい。